

子どもたちの歓声と上がる水しぶき  
ふるさと鮎つかみ取り大会



大漁のアユに笑顔もはじける

8月15日、ハローワーク根雨駐  
車場横の水路で、ふるさと鮎つか  
み取り大会が開かれました。

これは、子どもたちにすばらし  
い自然とふるさとを大切にすする心  
を育てたいと活動する、水と魚に  
親しむ会（生田正明会長）が、毎  
年企画しているものです。

当日は、帰省者など多くの家族  
連れが訪れ、会場は大にぎわい。  
子どもたちは「待てー」「獲れたあ、  
やったあ！」などの歓声を上げな  
がら、夢中でアユを追いかけてい  
ました。

6人で西遊記の世界を再現

お芝居くらぶさん・ふいーるど公演



古典に現代的なセンスを取り入れた舞台

町内で活動している劇団、お芝居  
くらぶさん・ふいーるど（佐野咲百  
合代表）の夏公演（さんふい的西遊  
記）が、8月22日と23日の2日間、  
町文化センター・ホール森の音楽隊  
で上演されました。

脚本は、おなじみの西遊記の物語を  
アレンジしたオリジナルで、天竺へ  
ありがたいお経を求めて旅を続ける三  
蔵法師一行がついに天竺へたどり着く  
が、そこは妖怪たちが潜む二セの天竺  
だったという物語を、笑いを交えなが  
らテンポよく演じました。

客席からは笑い声や拍手が何度も  
起こり、リラックスした雰囲気観  
劇を楽しんでいました。

地域に受け継がれる伝統行事  
下榎で奉納宮相撲



がっぷり四つで真剣勝負

8月23日、下榎の摩利支天神社  
で、夏の例祭と奉納宮相撲が行われ  
ました。

勝負の神様を祭っている摩利支天  
神社の宮相撲は、明治時代の終わり  
ごろから続いている伝統行事です。  
今年も昨年同様、根雨スポーツ少  
年団から9人が参加し、熱戦が繰り  
広げられました。特に、中学生の息  
子との親子対決は、会場を一段と盛  
り上げました。

参加者は「受け継がれている伝統  
行事、絶やすことなく続いてほしい」  
と話していました。

地域の玄関・駅の清掃に汗を流す

JR黒坂駅と上菅駅の清掃作業



上菅駅での清掃に参加した皆さん

8月9日、地域の玄関であり顔で  
もあるJR黒坂駅、上菅駅の清掃作  
業で、黒坂地区コミュニティ推進協  
議会（中原明会長）が、草刈りと清  
掃作業を行いました。

黒坂駅では、町観光協会の協力も  
あり11人が参加し、駅裏の草刈りや  
サツキの剪定、駅構内の清掃を行  
いました。一方、上菅駅では、自治会  
の皆さんも参加し、30人で駅や自転  
車置き場などの清掃を行いました。

盆の帰省前でもあり、参加者は多  
くの利用者に喜んでもらえると思  
い、足さうな様子でした。



# 健康で安心・安全なまちを目指して

## 「日野町の健康づくり事業に関する包括連携協定」調印式



景山町長と石本協会けんぽ鳥取支部長（右）

町と全国健康保険協会（協会けんぽ）鳥取支部が互いに連携・協力をし、日野町全体の健康増進を図ろうと、7月30日、日野町役場で「日野町民の健康づくり事業に関する包括連携協定」調印式が行われました。

町内では、高血圧や糖尿病にかかっている人が多く、脳や心臓の血管の病気の発生率が県内平均よりも高い傾向にあります。このことは医療費の高騰以上に、健康寿命を維持する上で大きな不安であり、国民健康保険や後期高齢者医

療だけでは解決できない課題となっていました。

また、協会けんぽ鳥取支部は、県内の中小企業に勤めている被保険者とその被扶養者が加入している職域で最大の医療保険者であり、日野町においても町民のおよそ27割が加入しています。同協会では各種健診や保健指導などをはじめとした健康づくり事業を行っています。

今回の協定で、日野町国民健康保険と後期高齢者医療、協会けんぽを合わせて、町民のおよそ8割の人をカバー。より多くの人に、特定健康診査やがん検診をはじめとする健康に関する情報を提供することが可能となりました。また、町民の幅広い健診結果や医療データを把握し分析することで、町の健康課題をより正確に理解し、課題解決に向けた健康づくり事業や疾病予防事業の取り組みを進めることができるようになりました。

今後の連携により、町民が健康で安心・安全に暮らしていけるまちづくりに向けた取り組みがさらに進んでいくことが期待されます。

# 菅福地区から元気なまちを発信

## 「とっとり共生の里」協定調印式



左から、景山町長、上田さん、口田会長、平井知事

中山間地域の農村と企業が連携し、農地や用水路などの地域資源保全や農産物の生産、加工品作りを取り組み、農業や農村の活性化、人的交流の促進を図る「とっとり共生の里」協定の調印式が、8月8日、日野町役場で行われました。調印式には、菅福地区連合自治会長の上田雅男さん（上菅）や伯耆地区郵便局長会の口田剛史会長のほか、平井伸治鳥取県知事、景山町長、菅福地区の住民ら20人が出席し、四者が協定を締結しました。

期間は平成27年8月8日から平成31年度末までの5年間で、県と町が年間60万円を上限に補助金による支援を行います。

活動内容は、①農地、用水路、農道などの保全管理、②約30㍍の遊休農地の再生、③地元の畜産農家との連携による有機肥料を活用した野菜の栽培や加工品作り、④菅福地区の7集落合同での「代満て」行事の開催、④「たたら街道」の保全や史跡めぐりなどの情報発信などを予定しています。

上田さんは「今回の連携をきっかけに、地域の元気づくりのスタートにしたい」と抱負を語りました。



新たなスタートを祝い全員で記念撮影